

(4)

部会名 子ども部会 ③

政策提言

学校における「いのちの教育・乳幼児とのふれあい体験」「保育学習と准保育士制度」の体系的プログラムの普及事業

現状と問題点

1, 虐待、放棄の増加

日本では少子化に伴い、ほとんどの子どもが中学生以降は乳幼児と接する機会のないまま大人になり、知識や経験が不足のままやがて出産、育児を体験し、大きな育児不安、ストレスを抱えたり、虐待や放棄に繋がるケースが生じている。

2, 学校でのいじめや暴力の増加、青少年の自殺の増加がある

3, 命の大切さの体験的学習機会の不足

現在保育園等での職業体験等が行われているが、全児童が体験できる訳ではなく、受け入れ側の保育園でもインフルエンザの影響等で、受け入れが困難な状況が生じている。

4, 都市部における保育園の不足

待機児童の増加の解消が進まない。

5, 保育士の不足と認可外での低賃金による定着率の悪さ

保育士資格を取るための条件が厳しく（保育短大、大学、保育専門学校卒業、高卒者は児童福祉施設実務経験2年以上等）、費用と時間がかかり資格が取りにくい。就職後の賃金が安いいため、定着率が悪い。

6, 高校卒業者の就職の困難

高卒者の就職困難、労働条件の悪化、低賃金。

具体的内容

I、中学校での「いのちの教育・乳幼児とのふれあい体験」授業実施。

地域の子育て支援NPOとの協働により、中学校で「いのちの教育・乳幼児とのふれあい体験」を行う。単に講演会形式で講演者の話を聞くだけではなく、実際に親の気持ちを体験できるプログラムや、育児の方法、乳幼児親子とのふれあいなどを組み合わせた、複合的な授業内容。

内容) ①助産師による講演 ②乳幼児とその保護者(父母)とのふれあい体験 ③妊婦ジャケット着用体験 ④胎児人形・新生児人形とのふれあい体験 ⑤ベビーカー移動体験 ⑥絵本の読み聞かせ・手遊び・ふれあい遊び学習 ⑦子どもの育ちのDVD視聴 等

1, いのちの教育ふれあい体験授業のプログラムの普及

①各自治体、中学校等でプログラム普及のための講習会を実施

②授業の見学会を実施

2、各地でモデル授業を実施

①モデル授業を実施

②アドバイスを実施

3、全国各地で「いのちの教育ふれあい体験」授業を実施

II、高校での保育学習と「准保育士」資格の創設

高校で育児のノウハウを系統的に学ぶ。准保育士資格を創設し、取得できるようにする。

①「准保育士」資格を創設し、高校卒業時に取得できるようにする。保育士資格とは異なり、保育士を補完する資格であり、保育園開設のための要件にはならないが、保育園、子育て支援センター、その他保育関係施設、部署への就労を優位にできるようにする。

②准保育士資格は高校へ通いながら地域のNPOで学習と実習を受け、試験で取得できるものとする。また無資格者が保育園で働きながら准保育士受験の学習を行えるようにする。

③受講費用の免除と受け入れNPOへの実習費用補助を行う。

④准保育士は、保育園等での実務経験1年で保育士受験資格を取得できるものとする。

⑤准保育士は無資格者より給与を高くする。

期待される効果等

I 1, 虐待、放棄の予防 2, いじめ、暴力、自殺の予防 3, 子ども同士の世代間交流

4, 学校、教師への啓発 5, 地域交流 6, 地域の子育て支援のNPOとの協力により活性、雇用創出 7, 参加協力の乳幼児親子が子育てに生きがいを見いだす

II 1, 保育士の養成が進み、保育士の不足が補える 2, 高卒者の保育園等への就職が進み、就労支援にな

る 3. 高校で保育に関して学習を行うことにより、将来、親としての育児に必要な知識を若いうちに養うことができる。また、人間の命の大切さを学ぶことで、人権への啓発ができる 4. 子育て支援の場に若い世代が入り、世代交替が可能になる。NPO等の活性化に繋がる 5. 子育ての社会化に繋がる。子育てに関する福祉が仕事に繋がる 6. 男女の働き方の見直しや、夫の育児への関わり方への効果等、若い世代からのワークシェアリング、ワークライフバランス効果に繋がる 7. 地域の子育て福祉のセイフティネットとなる

必要な予算額・条件等(単位：百万円)

1、「いのちの教育・ふれあい体験」授業のプログラムの普及 総予算 年間100百万 継続

2、全国各地で「いのちの教育ふれあい体験」授業を実施していく

次年度より、授業実施の自治体、学校には実施費用として1回10万の補助

100校×10万=10百万 → 10,000校×10万=1,000百万

3. 高校での保育学習と「准保育士制度創設」 学習：年間216百万～270百万（対象者5,000人）

（432百万～540百万 対象者10,000人） 制度創設は別途。NPOへの補助は別途。

政策提言の責任者[所属団体・役職・氏名][メールアドレス]

特定非営利活動法人ままとんきっず arikita_i@yahoo.co.jp

理事長 有北いくこ [電話番号]080-5025-7774